

功績調査部長殿

十三根 密第八 號

ノ一

一月十九日提出

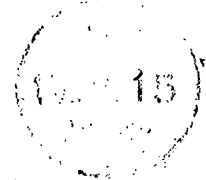


軍機

昭和十八年十月一日
至昭和十八年十月三十一日

第十二根拠地隊戦時日誌

第十二根拠地隊司令部



1306

目次

- 一 経過
- 二 人員、現状
- 三 令達報告等
- 四 参考
 - （一）戦訓
 - （二）寫真
- 五 作戦経過概要
- 六 會計経理

(目次終)

自昭和十八年十月三十一日第十三根據地隊戰時日誌

一 経過

一 一般情勢

過般未敵ハ雨期明ト共ニ海陸空ヨリスル緬甸總反攻ヲ豪語

シアリシ處九月二十六日東南亞細亞軍總司令官トシテ「ロマン

ゴッテ」任命セラレ本月七日「ゴネー」ニ着任セルモノ、如ク着々

準備ヲ整正ヘ近キ將來ニ於テ反攻作戰實施ヲ見ルベキ情勢

ニアリ

之ニ對シ從來緬甸方面海軍部隊トシテハ蘭貢ニ十三航空備隊

及十二通信隊ノミ配備セラレリシ情況ナリシ處緬甸北沿岸ノ

防衛強化必要ニ鑑ミ九月一日附ニテ既ニ十三航空備隊編成

セラレ本月二十四日睦洋丸ヲ蘭貢ニ到着セルモ海軍自体ノ

海上輸送力皆無ニ爲逼道セル陸軍鐵道輸送ニ割込ミ
三十日ヲウシカツプロニ向ケ隊屬化貨物ヲ前送ヲ開始セリ
同シク十月一日附ニ第十三根據地及第十七警備隊編成
セラレ今月八日依世保ニテ準備完了根據地隊司令部ハ今月
十五日榮邦丸ニテ依世保發敬言備隊ハ今月二十六日乾安丸ニ
テ今發シ目下昭南ニ向ケ進出ノ途上ニアリ
司令官ハ十月十二日昭南着^{13時}指揮ヲ執リ十月二十七日
蘭貢ニ進出陸上廳舎ニ將旗ヲ掲揚セリ
敵機ノ蘭貢ニ對スル空襲及偵察ハ磁氣機雷投入ト共頻
繁ニシテ合計十七日間及ビ被害ハ陸軍側及民間側ニ若
干アリタルノミニシテ海軍側ニハ全く無シ特ニ二十六日空襲ニ於テ
ハ八船^四トウバあり丸至近彈ニ依リ沈没セリ
投入磁氣機雷ニ對シテハ本月ニ回磁氣掃海ヲ實施シ二個

ヲ處分セシ外自爆一個アリタルノミニテ爾後異状ナレ

(二) 敵軍ノ情勢

「チンドウイン」河方面ニ於テ稍活澆化ヲ認メラルルニ至リ又「アキヤグ」
正面ニ於テハ「チンガ」河方面ノ小艦艇ノ動向ト相俟ツテ「カ
ド」モントウ正面向ニ兵力増強ヲ安負施シツアルモ諸般ノ情況ヨリ
判断スルニ未ダ兵力ノ増強軍需品ノ集積前送第一線交通
路ノ補修及防衛態勢ノ強化ニ主力ヲ注ガ大規模ナル反攻
依戰ノ氣配ハ認メラレズ

印度方面敵艦艇ノ動向ハ「カルカッタ」ニ於テハ出入毎日一回内
外ニシテ大ナル變化ヲ認メラレサルモ通信情報ニ依レバ「ホニハイ」アラ
ビヤ海方面ノ艦艇交信圖數増加ト特ニ「セイロン」島方面ニ於テハ
從來ノ約ニ倍ニ及ハコトモアリ伊國降伏後情勢ヨリ判断スルニ艦

隊集結等ヲモ推知セラレ大ニ敵軍ヲ要スルモノアリ
印支輸送機ハ一日平均約四十五機ニ及ビ最高七十機ニ達ス
印度西部ニ於テモ輸送機漸次増加シツ、アルハ印度防衛對
緬甸及攻メ爲中央機構強化及對支物資補給ニ狂奔シ
着々準備ヲ急ギアルモノト判断セラル特ニ入支機入印機ヨリ
多数ナルハ注意ヲ要ス
「ベンガル」湾畔戒機ハ對印度兵器軍需品輸送ニ関聯シカ
ラツクヲ基地トシテ日ニニ乃至三機時ニ五機ニ及ビ又「セイロ」島
以東ハ廣範圍ニ哨戒ヲ實施シツ、アル模様ナリ
東部印度ノ敵空軍ハ一部戰略展開未完ノ如キ觀アルモカ
ルカッタ「周辺」ニオケル訓練機ノ多数ハ今後ニオケル航空機ノ趨
勢ヲ窺ハシムルニ足ル即チ我ガ後方要地集積軍需品ノ攻撃
鐵道要衝ノ爆撃及「蘭貢」河磁氣機雷投入等ニ依リ麻路

開塞ヲ實施シ右方補給路ヲ遮断ヲ續行スルト共ニ右ニ高地
 並ニ「アキマ」方面所在友軍陣地ヲ輸送基地ニ對シ小數機
 ヲ以テ執拗ニ及復未龍襲ミ緬甸内我各飛行場ニ對スル未
 龍ヲ漸次増加シ特ニ夜間出撃ヲ八月朔ニ伴ヒ一層激烈化
 セリ

本月中緬甸内敵機襲撃狀況ヲ綜合スレバ

上旬	二〇九回	六九九機
中旬	二二六回	六三九機
下旬	二七〇回	九〇〇機
ニ及ブ		

通信判断「依ル本月中ノ敵機活動情況」尤ノ如シ

地域 上旬 中旬 下旬 計

印緬國境地区 四五六 三八九 四七四 一三一九

カルクツタ地区 六二八 六一八 七四一 一九八七

西南支那方面ノ重慶軍ハ我怒江作戰ニ依リ攻準備ニハ大差跌ヲ來セルニ後方補給線ニ兵力集中ハ依然續行ナリ

三) 任務編制配備

ハ) 艦隊編制

聯合艦隊南西方面艦隊 第一南遣艦隊 第十三根
據地隊

ロ) 艦隊兵力部署

南西部隊 西方部隊 緬甸根據地部隊

一) 主任任務

緬甸根據地 部隊	區 分 指 揮 官	13K2 司令官
13D2 (空母艦隊=テ泊南=向進出) 12K2 13K2 (177=向陸路進出中) 17K2 (空母艦隊=テ泊南=向進出中) 12C2	兵 力	
(一) 緬甸沿岸防備警戒 (二) 緬甸沿岸泊地及補給基地 整備防衛 (三) 海上交通保護 (四) 緬甸方面軍上連絡	主 要 任 務	

常木大佐	第十二 警備隊	澤見中佐	第十三 警備隊	河野大佐	第十七 警備隊
------	------------	------	------------	------	------------

第十二警備隊司令	第十三警備隊司令	第十七警備隊司令
陸警科 水警科 附屬隊 中型砲艇三 大貨物車。四	陸警科 水警科 附屬隊 大貨物車。七	陸警科 水警科 附屬隊 大貨物車。五
(一) 中部緬甸港灣水路、防備 警言戒 (二) 日方が方面海軍部隊 補給給送命令中継 (三) 所在海上交通保護 (四) 港灣及水路維持、關 陸軍部隊、協力	(一) 緬甸沿岸北部防備警 戒 (二) 海上交通、關陸軍 部隊援護	(一) 南部緬甸沿岸防備警 言戒 (二) 沿岸泊地及緬甸方面部 隊補給基地整備防衛 (三) 海上交通保護 (四) 艦隊泊地、整備

(四) 作戰指導

機密第一三三〇五番電ニ依リコキヤグヒ方面ニ敵未襲ノ場
 合ハ九三六空零式水偵六機程度同方面ニ進出區間ハ潛
 伏シ夜間魚雷艇其他小舟艇攻撃ニ當ラシムル予定ナルコ
 ト衆令マアリタル所ニ十三日機電令依第二一號ニ依リカニ島
 (カニ島) 西方六哩)ニ約八機アゴシ(ハセイン) 南西方約三〇
 哩)ニ約三機分水上基地ヲ十月中旬以降使用ヲ目途トシ

第十二 通信隊	第十三通信 隊司令	本 隊 第一分遣隊 第六分遣隊 貨物車一	(一) 葡貢方面味方ニ通信 中樞 (二) 對敵(印度及印度洋) 通信
------------	--------------	----------------------------------	---------------------------------------------

テ設置スヘキコト発令セラル然ルニアレハ附近ノ中継基地ハ
セオンヨリスル陸上補給不可能ニシテ又海正面ヨリ實施セラルハ
ラザルヲ以テ差當リ當隊トシテハコダポイント附近ヲ一時的ニ
基地トシテ使用スルコトニ目下調査中ナリ
ニ十七日更ニ基地トシテ状況ニ依リコダポイントヲ使用スルモ
知レサル旨受電コダポイントノ調査終了次第速ニ實
施ノコトス

1317

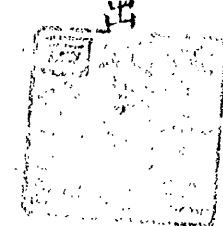
功績編訂部長殿

第十三根據地隊機密第八號之三

四月十五日提出



自昭和十八年十一月八日
至昭和十八年十二月十八日



1318

第十三根據地隊戰時日誌

第十三根據地隊司令部

目次

- 一 経過
- 二 人員の現状
- 三 令達報告等
- 四 参考
- 五 寫真
- 六 作戰経過概要
- 七 會計経理

(目次終)

1319

自昭和十八年十一月一日第十三根據地隊戰時日誌
至昭和十八年十二月三十一日

一 経過
二 敵情

在印米英軍對日進攻軍ト印度防衛軍ト任務限
界ヲ明確ナラシメ印緬國境米英軍ハマウントバッテン指
揮下ニ入リタルモノノ如ク進攻ニ對スル戰略的基礎配置略
完成シ銳意道路構築飛行場敷設備前進據点ノ
獲得ヲ圖ル外威力偵察等ヲ以テ我軍狀況偵知ニ努メツ
ツアリ

敵空軍ハ十月下旬ヨリ十一月月上旬ニ亙リ連日大拳蘭
貢ニ未龍襲セシガ我カ邀惠依リ特ニ十一月一日其ノ三分ノ一ヲ
一撃ニ撃墜セラレ甚大ナル打撃ヲ被リ其ノ後ニ於ケル迄

動極メテ低調トナレリ敵ノ総反攻準備後方ノ整備
航空勢力ノ増強等著ク進捗シアルヲ認ムルモ航空機
國境方面配置狀況等ヨリ見テ全面的反攻ノ期ニ
達シ非サルモト認ム

(1) 北部印緬國境

重慶軍ノ行動茲ニ敵機ノ出撃ハ一部ニ於テ稍活氣ヲ
呈シタルモ其他第一線狀況ハ比較的平靜ニシテ及ツテ
敵側ハ開戦記念日タル十二月八日ハ我カ攻撃對シ敬言
戒シアルモ如シ

(2) 中部印緬國境

テンドウイン河正面第一線ハ大ナル変化ナキモ敵第十七
師ハテイテム附近ニ概ネ集結ヲ完了セルモノノ如クフォート
ホワイト正面ニ對シテ緩除ナル攻撃ヲ續行シアリ又テイマ

プーレー「コヒマ」間、運行状況、活発なミミ、該方面、後方
兵團進出、徴濃、厚ナリ

尚「シター」西方地区ニ英人部隊、進出増加シアリ

南部印緬國境

「コチンドン」正面ニ對スル敵、動向ハ中旬ニ至リ再ビ活況ヲ呈
シ連日、如ク我第一線陣地ニ出撃シ之ニ呼應シ敵機
銃爆撃モ執拗ニ續行セラレアリテ同地域ノ奪取ヲ企圖
シ「アルマ」傾向ヲ看取セラル

尚「ホリバザ」間自動車道路構築等
ヲ推察シ敵ハ其兵力運用ノ重点ヲ逐次「コチンドン」正
面ヨリ「マス」河東方地区ニ移行シアルカ如シ
敵機出撃ハ我第一線及舟艇基地等ニ對シ執拗
續行セラレ又「エム」島ノ銃爆撃ト相俟ツ地

上直協作戦ニ重点ヲ指向シアルモノ如シ
 特ニ十日ノ「ラムレー」島「レーガン」地区対シテ敵小型艦
 艇ノ銃砲撃ハ我ガ後方攪乱ト威力偵察ニアルモノ如シ
 空軍情況

敵空軍ノ緬甸内出撃ハ十月初旬以後ハ比較的低調
 ナリガ中旬ニ到リ活況ヲ呈シ下旬ニ入り再び低調トナレルモ
 國境第一線ニ於テハ依然ト執拗活発ニ出撃シテアリ
 特ニ十月二十五日ヨリ十一月二日ニ亘ル南貢爆撃ハ頻
 繁熾烈ニシテ此間延機数爆撃機二四〇機、戦斗機五八
 機ニ達セリ

本月中ニ於ケル緬甸内敵機来襲狀況

区	回数	偵察機	小型機	中型機	大型機	計
上旬	二八八	三三	三〇二	二八〇	一三〇	六六五

計	八二〇	一八〇	一四四	九九九	四一八	二六六	四
中旬	三三二	三八	五〇〇	四八一	一六四	一八三	
下旬	二八〇	三九	三四二	三〇八	一三七	八一六	

最近敵空軍ハ戦斗機爆撃機大半ヲ新機種ニ改
 変セリ即チ米空軍ハ爆撃機全機ヲ十月乃至十月
 間ニ丁型ニ英空軍ニ在リテハハリケーニ戦斗機ヲ逐次
 スピットファイヤーニ改変ヲ了セルモノノ如シ

尚主トシテ米空軍ハ緬甸要地ノ攻撃英空軍ハ印度
 内ノ防衛ニ任じカルクッタノ周辺及「シツクゴン」附近ニ多数
 配置セラレアルモノノ如シ又在印米英空軍ヲ統合シ東
 南亜細亞空軍ヲ編成シ米英空軍ノ一元的運用
 ヲ策シアリ

特情及俘虏調査ニ依ルニ在東部印度米空軍ハ最

近爆撃機 B24 約七〇機 戦闘機 約三〇機 偵察機 及
 輸送機 約三〇機 合計 約一三〇機 増加 約二〇機 概不
 確實ニシテ 現勢力カハ 米空軍 四八〇機 (爆撃機 二五
 〇機 戦闘機 三〇機 偵察機 其地 一〇機)
 英空軍 三五〇機 (爆撃機 八〇機 戦闘機 二〇機 偵察機 三
 〇機 輸送機 四〇機) 計 八三〇機 ナリ
 印支間空輸路ハ 依然 活況ヲ 呈シ之ニ 充當セル 輸送
 機 八五〇機 以上 及び 益々 活況ヲ 呈スレアリ
 本月ニ於ケル 入支物資ハ 一〇、〇〇〇 噸ヲ 超過セルモノ 如シ

(木) 艦船情況

初旬以來 印度洋 北西部ニ 相當數ノ 艦艇行動シ
 アルモノ 如シ かつ 南海面 及 南河ニ於ケル 敵艦
 船ノ 動向 大ナル 變化 ナキモ カルカタ 出入港 船舶 依然

活況より北部のバンガル湾沿岸一帯十二月中旬以降敵艦艇船團等ノ活動活況ヲ呈シタルモ地上部隊ニ対スル常續的補給及作戰資材ノ集積等必要ナル船舶ノ行動茲之が護衛ノタメト判断セラレ上陸作戰實現施徴ト認ムベキ著キキ変化ナリ
 然レ共カルクッタレ出入艦艇ノ増加嚴重ナル海上哨戒艦艇宛電報ノ増加等ハツリシコマリ港空母ニ隻ノ在泊(海軍飛行艇偵察)及特情ニ依ル西部印度洋ニ於ケル敵艦船動向ノ活況等ト相俟テ嚴重ナル監視ヲ要ス
 特ニ下旬印度西部ニ於ケル哨戒艇ノ出現活況ヲ呈シタル船團ノ到着ヲ窺ハルモナリ
 (ハ)印度情勢

印度政府ハ印度南部鐵道ヲ引續キ更ニ明年三月
 末日迄ニ南部マドラスト鐵道ヲ政府管理ニ移管ス旨
 発表セリ之ハ南部印度鐵道ヲ統一シ戰略的利用ヲ
 企圖スルモノト認ム
 又カ此州ニ於ケル食糧難及流行病ハ益々増大シアルモ
 如シ

(二) 我軍ノ情況

友軍部隊
 南部印緬國境及西南海岸方面ニ植兵團ハマドラスト
 正面ニ進出セル敵ヲ各所ニ破碎シツアリ
 中部印緬國境ノ兵團ハチン高地防衛ニ強化スル
 事アリ
 北部印緬國境菊兵團一部依然タナイ河線ニ

於テ敵ト對峙中ニシテ近時活潑化セル敵出撃ヲ隨
時擊退シツアリ

海軍部隊

(1) 第十三航空備隊ハ銳意防衛施設ヲ急キツアリテハ
日ヲキヤクヒルニモ基地設置道ヲ了セリ

爾余ノ各隊ハ夫トシテ戰備促進ニ努メ又陸軍部
隊ノSM輸送ニ極力協力ス

(2) 一時中止セラレタル電一號作戰準備ハ一日ニ到リ再開セ
ラレ當隊ハトシグールマガウエニ飛行場ニ對シ所要各

及基地員ノ輸送ヲ實施シ三日夫々基地ヲ設置セリ
尚本作戰支援ノ為參謀長ヲ長トスル基地隊ヲロン

グールマガウエニ派遣シ作戰ニ協力セリ
(3) 四日二十八航戰一式陸攻九機トトシグール飛行場零

180

戦二十七機「マグナム」飛行場着五日陸軍航空部
 隊ト協力「カルクッタ」各間爆撃ヲ實施多ク大成
 果ヲ收メ全機無事皈還セリ
 (4) 同作戦終了に伴ヒ同日夕刻西飛行場基地ヲ撤
 收セリ

(5) 十八日第一南遣艦隊司令長官蘭貢ヲ十二日「メルギ
 」ヲ巡視セラル

(6) 先月十五日軍隊区分ニ依リ第一「京丸」及「麗水丸」ハ
 十二警備隊ニ配属セラレタルモ本月十二日附ニ第一「
 京丸」ヲ一時第十七警備隊司令官指揮下ニシム
 十七日「ロッキンキヤン」水偵基地設置完了
 二十日軍需機密第一三三三五四番電ニ依リ「メルギ」
 三軍需部出張所設置「コト」ニ決定セラル

緬甸根據地部隊	13B♀ 司令官	13B♀ 12K♀ 13K♀ 17K♀ 12C♀	緬甸沿岸防備敵意 緬甸沿岸泊地及補給基地整備防衛
---------	-------------	--------------------------------------	-----------------------------

(三) 夜戰指導
 の各部隊、区分並ニ任務

三十日『一五。敵ラムレー島レーガン地区ニ上陸』ノ報アリタルモ敵小型艦艇ノ銃砲撃ヲミニシテ上陸ニ非ラザルコト判明セリ同日『六。〇ニナハ航戦攻撃隊ラムレー島敵艦船攻撃ヲタメ「ポートブレア」ニ飛進セルモ敵ヲ見ガリシタメニ。三。〇マウビレ飛行場ニ毀著セリ

第十三 警備隊	第十三 警備隊
------------	------------

第十三警 備隊司令	第十三警 備隊司令
--------------	--------------

陸警科 水警科 附屬隊 大船 貨物車 七	陸警科 水警科 附屬隊 大船 貨物車 四
-------------------------------------	-------------------------------------

海上交通保護 緬甸方面軍ト連絡 中部緬甸港灣水路 防備警戒 タラカソ方面海軍 部隊補給該支中継 所在海上交通保護 港灣及水路維持 陸軍部隊協力 緬甸沿岸北部防 備警戒 海上交通閉陸 軍部隊接護	海上交通保護 緬甸方面軍ト連絡 中部緬甸港灣水路 防備警戒 タラカソ方面海軍 部隊補給該支中継 所在海上交通保護 港灣及水路維持 陸軍部隊協力 緬甸沿岸北部防 備警戒 海上交通閉陸 軍部隊接護
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第十二通信隊	第十七警備隊
第十二通信隊司令	第十七警備隊司令
本隊 第一分遣隊 第二分遣隊 貨物車一	陸警科 水警科 附屬隊 貨物車五
<ul style="list-style-type: none"> 一 蘭貢方面味方 二 通信中樞 三 對敵印度及印度洋通信 	<ul style="list-style-type: none"> 一 南部緬甸沿岸防備警戒 二 仰光泊地及緬甸方面部隊補給基地整備防衛 三 海上交通保護 四 艦隊泊地整備

(四) 作戰命令ノ要綱

(1) 十六日 NSB 電令作第九八號 依リ九三六空ハ水偵ム

部ヲ残置シタルグイ兵カラ撤收スルコトナレリ

(2) 十六日 13B 電令第三號 依リ輸送船舶護衛タメ第

一京丸ヲ一時 17B 司令ノ指揮下ニ入ラレム

(3) 十七日 3F 電令作第二號 依リ三三二空戰鬥機一ヶ

小隊タルグイ附近ノ船固護衛ニ任セシメラレ

(4) 二十日 SHB 電令作第九號 依リ 17B 7レテ 331B タルグイ派

遣隊ノ宿營警戒ニ関シ協力セレム

(5) 二十三日 SHB 電令作第四三三號 依リ陸軍 SM 輸送

協力ノ爲タルグイ蘭貢間ノ船舶護衛ヲ担任

セシメラレ

(6) 三十一日 四一五〇一五。敵上陸開始ラムレー島ノ報ニ

月

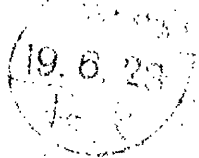
軍機

功績調査部長印

第十三根據地隊機密第八號

自昭和十九年一月一日
至昭和十九年一月三十一日

五月二日提出



第十三根據地隊戰時日誌

第十二根據地隊司令部

1334

目次

一 経過

二 人員、現状

三 令達報告等

四 参考

五 作戦経過概要

六 會計経理

(目次終)

1335

自昭和十九年八月三十一日
至昭和十九年八月三十一日
第十六根據地隊戰時日誌

一 経過

(一) 敵情

敵ハ總反攻ノ序幕トシテアキヤブ正面ヨリ
攻襲シ少クモアチドニモンドウ附近ノ要域
ヲ奪取シ之ヲ政戦兩略上ニ利用セント企圖
スルモノ、如ク其ノ宣傳論調及攻襲要領ヨ
リ見ルモ右色彩極メテ濃厚ナリ
右作戰ニ連繫シ北緬ニ於テハ我ヲ積極的ニ
牽制シ又將來印支連絡作戰ノタメ據点獲得
ヲ圖ルノ方策ニ出テアルモノ、如シ
二十五日又モヤシムレ山島ヤシホツク河口

沖ニ敵小艦艇出現機関砲射撃ヲ實施セルモ
之ハ敵コマンド部隊ノ慣用戦法ニシテ威力
偵察又ハ奇襲擾乱ヲ目的トスルモノト認メ
ラレアリキヤゾ陸正面作戦ニ伴フヲタゴシ方
面ヨリスル敵海上機動作戦ニ関シテハ嚴戒
ヲ要スルモノアリト雖モ緬甸西南海岸ニ對
スル大規模上陸作戦實施ニ関シテハ未ダ顯
著ナル徵候ヲ認メズ
航空機出現狀況ハアキヤゾ其ノ他第一線以
外ハ比較的低調ナリシモ敵ハ我後方輸送妨
害ニ主カラ指向セルモノ、如ク蘭貢河モ一
ルメシ河等ニ頻繁ニ磁氣機雷ヲ投入シ又ア
ラカシ山脈輸送中ノ自動車ニ對シ頻繁ニ銃
撃ヲ加フ怒江正面ニ於テハ敵ハ依然防衛強

(イ) 化 = 努力シ進攻ノ徴ヲ認メズ
北部印緬國境

敵ハ我が戦線整理ニ追尾シタルニ河ヲ渡河
南下シ列イバが正面一帯ニ反攻據點ヲ擴大
強化シツ、他方工兵團ヲ前方ニ推進シ道路
橋梁ノ構築飛行場ノ設定等着々反攻準備ヲ
實施シ列ナシ河渡河攻撃ヲ企圖シツ、アル
ヤニ思推セラレ

(ロ) 中部印緬國境

第一線ノ敵行動ハ依然大ナル変化ナキモ列
凶シクシタシ正面稍活潑化シ一部ノ敵ハキヨ
クチヨシタシ東北方面ニ四料附近ニ進出
飛行機ノ協力ノ下ニ来攻セシガ我カ攻撃ニ

依リソノ大部ハ退却セリ
尚後方ニ於テハ依然道路ノ補修構築兵力軍
需品^備然ニ集積ニ努メ又攻能勢ノ整備ニ腐
心シアルモノ、如シ

(ハ) 南部印緬國境

モンドウ東南方地区ニ進入セル敵ハ我攻惠
ニ依リ一應マギ河以北ニ敗退セルモ其ノ後
敵ハモンドウアチドニ正面全域ニ亘リ約十
五ヶ大隊ヲ展開我ニ對シ圧迫態勢ヲ強化シ
ツ、熾烈ナル砲爆惠ニ連繫シ各所ニ於テ逐
次渗透的ニ進出シ来レリカラダシ河谷ニ於
テハ敵ノ一部約一五〇〇ハ舟艇ニ依リ南下
シ来リ我が部隊ト交戦中ナリ
右地上部隊ノ進出ニ伴ヒ後方補給路トシテ

月一、河船泊ノ運航活器ニシテ二月二十六日空中偵察ニ依レバ約二〇隻計ニ〇〇〇隻一部ノ敵ハ月一、河口附近ニ於テ上陸ヲ企圖セリ
當方面ニ於ケル敵機ノ活動ハ依然活器ニシテ銃爆惠ニヨリ地上部隊ト密ニ協力シツ、アリ

(三) 空軍狀況

本期間ニ於ケル敵機ノ出惠ハアキヤブ其ノ他第一線方面以外ニ於テハ一概ニ低調ナリシモ之ハ新鋭機ハノ機種改変或ハ他方面ハノ一時転用等トモ思考セラレ注意ヲ要ス最近敵ハ我水陸輸送補給ノ遮断ヲ企圖シア

ルモノ、如ク蘭貢河、モールメ、河更ニ泰國
 或ハカ、河等ニ対スル大量磁氣機雷投入敷設
 車ノ夜間輸送ニ対シ、戦闘機ヲ以テ銃粟ヲ頻
 繁ニ實施セリ。モインド、ウアキヤ、グ方面ニ於テ
 ハ陸上戦闘ニ呼應シ、敵機ノ活動ハ熾烈ニシ
 テ、特ニモインド、ウアキヤ、グ間ノ遮断ノタメ敵
 ハ一、三、六、八、十二時間ノ時限爆彈ヲ混用投下
 セリ。地上部隊ノ進退ニ協力シツ、アル一方
 西南海岸特ニシムレ、山島ニ対スル偵察ヲ反
 覆實施セリ。

該方面敵ノ攻勢ハ次期總又攻ノ準備態勢ノ
 強化或ハ印支地上連絡路確保ヲ目的トスル
 牽制作戦トモ思考セラレモ又一方緬甸西南

海岸方面ニ対スル上陸作戦ノ前兆ニ判断セ
 ラレ大イニ警戒スバキ事象ナリ

緬甸内敵機未襲情况

旬別	回数	大中型機数	小型機数	計
上旬	二六一	三三七	四〇五	七四二
中旬	四一八	四五二	七三九	一一九一
下旬	二六六	二四六	三〇七	五五三
合計	九四五	一〇二五	一四五八	二四七六

東部印度敵空軍兵力ハ英空軍約四〇〇機米
 空軍約五〇〇機計九〇〇機在支米空軍兵力
 ハ約二五〇機ニシテ緬印國境英爆轟機ノ出

4

現狀況ハ一日平均約三九機ナリ前旬ニ比シ増加セリ

米空軍ハ主トシテ印支空輸路ノ掩護及支那方面作戰ニ主力ヲ置キアリテ最近在マシカ
此州ノ米空軍爆轟隊ハ他方面ニ転進セルマ
ノ疑アリ十二月下旬一時閑散ナリシ印支空
輸ハ一月上旬来再ビ活況ヲ呈シアリテ援蔣
空輸物資量ハ十一月以降漸縮ムトハ輸送量
ヲ突破シ尚増大セントスルノ傾向ニアリ

(木) 艦船狀況

陸軍ノ航空機偵察ニ依レハ十五日ゴソクス
バガ山港外河口附近三〇〇屯級一隻ニ〇
〇屯級二隻一五〇屯級一隻一〇〇屯級四
隻十六日夕ゴト港内四〇〇屯級五隻ニ

〇〇〇 船級七隻五〇 〇 船級一〇 隻其他小舟
 艇多数在泊二十六日付一〇 河小型船舶約二
 〇 隻計二〇 〇 〇 船級真偵察二十九日コツク
 スバガ山河口北方海岸ニ二〇 〇 〇 船級一隻
 五〇 〇 〇 七〇 〇 船級三隻ヲ認メタリ一月ニ
 十五日ニ二四〇 〇 〇 山島西南海岸ヤンホ
 シノ河西方沖合ニ敵艦艇數不明現レ我陣地
 〇 對シ約七分間機關砲ヲ以テ射撃直ニ避退
 セリ
 通信謀報ニ依レハ從來底調ナリシヤンガル
 湾哨戒艇ノ出現ハ二十五日ヨリ活氣ヲ呈シ
 二十三日ノ二十八日間ニ捕捉セル艦艇
 艦艇一〇 (一)哨戒艇三四 (二)結孤内ハ前七日

(一)

印度情勢

間比較ニシテカナルカツク出入ノ船舶相當數アリタルモノト判断セラル敵地上部隊ノモインドヨ進出ニ伴ヒテハ一口河小型船舶ノ運航増加シ十四日ヨリ十八日ノ間一日平均一〇隻約三〇〇〇屯ヲ算シアリ

食糧問題

マラヤコレタ等ノ流行ニ対シ印度政府ハ其ノ対策ヲ講シアルモ依然深刻化

シツ、アルモノ、如シ回教徒及ヒンツツ教徒トノ対立ハ激化ノ傾向ニアリテ回教徒聯盟ハ次第ニ親英的ニ移行スル公算大ナリ

印度政府樹立ニ我軍ノ印度進攻ニ基ク

印度政府ノ危懼ヲ利用シ會議派ノ公政府ニ

対スル妥協成立ノ可能性ハ極メテ濃厚トナ

リツ、アリ在印米軍モ本件ニ関シ斡旋中
如シ

一月十五日第十三回印度国防會議終了ニ當

リ東南アジア聯合軍司令部附カイルフレッツ

トリンセル中將ハ対日作戰ノ急ニハ印度ヲ

大作戦ノ基地トシテ転換セシムルコトノ必

要性ニ付論述セリ

マウソントバツテハ国防會議席上ニ於テ印

度空軍中西北國境軍及航空本部ハ印度軍司

令官ニ屬シ航空本部ハ専ラ印度人飛行士ノ

養成ニ當ル旨言明セリ

諸情報ヲ綜合スルニマウソントバツテハ戦斗

指令所ハセイロクニニ移駐セルコト概ネ確實

6

(ト)

ナリ
 対日戦ノタメ西阿軍ノ一部分遣隊ハ印度ニ
 到着マシントバツテ此ノ指揮下ニ入レリ
 敵諜者動向
 敵ノ諜報活動ハ近時頓ニ活潑化シ北緬ニ對
 スル我兵力増強茲西南沿岸ニ於ケル我防衛
 配備等ノ偵知ノ爲其ノ諜報網ヲ強化シツ、
 アルモノ、如ク最近ノ諸事例ヨリシテ防諜
 上特ニ嚴戒ヲ要スルモノアリ諜者指令内容
 シングリーン河モトルメシ河方面ニ對スル大
 規模ナル磁氣機雷投入印度洋方面敵艦船ノ
 増強其ノ他特情及印度擬政府進出ニ對スル
 焦慮等鑑ミ緬甸西南沿岸方面ニ對スル敵上
 陸企圖ニ関シテハ嚴戒ヲ要スルモノアリト

判断セラル

(二) 我が軍ノ状況

(一) 友軍部隊

南部印緬國境ノ植兵園ハモンンドウ以南ニ進

入セル敵ニ對シ十四日自圍態勢ヲ完了攻惠

ヲ開始スルト共ニ河チドニ方面ノ敵蠢動ニ

對シ嚴戒中ナリ

中部印緬國境ノ烈兵園ハ一部ヲ以テ可カ

ラハノ肅清ヲ實施スルト共ニ敵情偵知ニ努

メアリ

北部印緬國境ニ於テハ或ハタルニ河北岸ノ

陣地ヲ撤退一部戰線ヲ整理スルト共ニ一部

ヲ以テ河チドニ河湾局部敵陣地ニ對シ攻惠ヲ

ノ

實施シ爾余ハ戰鬥準備實施中ナリ

(四)

海軍部隊

司令部(蘭頁)

本乾季中ニ予想セラレル海正面ヨリスル敵
、大反攻ニ對シ進出以來陸軍部隊ト連絡ヲ
密ニシ首席參謀始々各主務參謀ヲ機宜各所
ニ派遣各部隊トノ連絡ヲ密ニスルト共ニ兵
要調査ヲ勵行セシメ小教兵器ヲ以テスル重
点的活用法ヲ研究スル等急速戰備完成ニ努
メツツアリ又近ク增強セラレハキ船艇部隊
等ノ急速進出ヲ計ルヲ之カ造修機關ノ整
備ヲ促進セシムル傍ラ所要軍需品ノ輸送集
積等着々戰備ノ完成ヲ計リツツアリ

第十二警備隊(本部蘭頁)

七日ヲウシガツハ揚格場ニ十五耗機銃ニ基
陣地完成

九日ヲヤクハスハ第一棧橋架設終了

十日ヲウシカツハ本部ニ十五耗機銃陣地設
置完了ス

十一日ハムトフアハタハ一機低空(三〇〇米)
ニテ来襲ニ十五耗機銃ヲ以テ之ト交戦之ヲ
撃墜ス

十六日ハシタハハ方面水路調査ヲ終了ス
アダムスポイント止見張所設置終了

十八日ヲヤクハスハニ十五耗機銃装備完了
ス

二十日第十二警備隊ヨリ派遣、砲艇ニ隻ヲ

1350

ウンガツゴ着

二十九日アラカン山中輸送任務從事中ノ

ラツゴ一台敵機ノ銃撃ニ依リ大破運轉員一

名戦死

三十日乙一基地(ラムレ)十三耗軍裝機銃ニ

基裝備完了ス

第十七警備隊本部(ラムレ)

進出以來自隊ノ設営及基地ノ調査設営ニ努

ムルト共ニ蘭貢方面ニ對スル后方輸送ヲ担

當シ其ノ勞多クナルモノアリ概ネ順調ニ経

過シツハアリ

十二日派遣中(ラムレ)基地員第十三警

備隊掃海指揮官ノ已処ヲ承ケモ(ラムレ)河

掃海開始

我カ緬甸方面輸送ニ對スル執拗ナル敵機ノ
 妨害ヲ排除シツツ各種掃海及哨戒ニ依リ水
 路ノ發開確保ニ努ムルト共ニ第十三警備隊
 ニ對スル陸方面ヨリスル局地輸送ヲ擔當シ
 遺憾ナカラシメツツアリ
 八日七日夜半敵機約二〇機ヲ以テセル蘭貢
 河磁氣機雷投入ニ對シ直ニ掃海ヲ開始ス
 十日四ノキヤニ甲基地設置完了セリ
 十一日蘭貢河掃海終了ス此ノ間自爆機雷一
 〇個処分機雷二個
 十二日十一日未明敵機數機ヲ以テセルモ
 ルメニ河磁氣機雷投入ニ對シ十七警備
 隊ノ基地隊ヲ区処ニ掃海開始

二十日モイルム河掃海終了此ノ間自爆機
雷二十一個処分機雷六個

二十七日四シキヤン田基地機銃陣地完成

其ノ他蘭貢河ノ日施掃海港務ノ処理等ヲ実
施シ陸上警備ニ関シ陸軍部隊ニ協力シツ、

アリ

第十三警備隊本部タウンガツ

進出以來敵機ノ跳梁下予想セラレバキ敵ノ

反攻作戰ニ備ヘ凡スル困難ヲ克服シツ、基

地設営防備作業或ハ兵器軍需品ノ輸送等ニ

全カヲ傾注シツ、アリテ着々防備態勢完備

シツミアリ

五日廿ウサジファトニヨリド(ラムレ)島北側

水道防材閉塞完了

二十日 月一ルメ之河掃海終了ス
 二十三日 夕刻第一次六機第二次十三機三回
 = 豆リゴソソリデーデットルグハ港ヲ空
 襲所在ニ三三ハ空戦機隊ト克ク連絡ノ上ニ
 機ヲ墜セシメタリ尚搭乗員一名ヲ捕虜ト
 シ重要ナル情報ヲ獲得セリ

第十二通信隊(本部蘭貢)

緬甸方面ノ作戦要務通信ノ中樞トシテ活動
 スル下共ニ對艦艇航空機謀者等ニ對スル各
 種通信情報ノ蒐集ニ努メ作戦上寄與スル所
 甚大ナリ
 尚當方面陸軍トノ通信連絡ニ関シ深甚ノ努
 カヲ拂ヒツ、アリ

第三十四防空隊(本部「マルグイ」)

十二日緬甸方面根據地部隊 = 加ヘラル

二十一日「マルグイ」 = 進出ヲ了ス

二十四日「マルグイ」 = 配備ヲ了ス (別圖第一参照)

第二十一魚雷艇隊

十二日五隻緬甸方面根據地隊 = 加ヘラル日

下進出中

九三六航空隊「キンヤン」派遣隊

九日彼南 = 復航ヲ命ジ當隊ノ指揮下ヲ離ル

作戦指導
東力部署

(1) 各部隊ノ区分線 = 任務

區分	指揮官	兵力	主要任務
			(1) 緬甸沿岸防備警戒

第九三六航空 隊 コシキヤン 派遣隊	第十三通 信隊	第三十四 防空隊
第九三六航空隊 コシキヤン派遣隊 指揮官	第十三通信 隊司令	第三十四防空 隊長
零式水偵機 基地隊	本隊 第一分遣隊 第二分遣隊 貨物車一 信	射撃隊 各種野戰高射砲 六門 七五口径裝機銃 二基 九〇口径探照燈 三基 附屬隊 貨物自動車四台
緬甸西南沿岸偵察及 敵未攻部隊ノ攻襲	(一) 蘭貢方面味方通信 中絶 (二) 対敵(印度及印度洋)通 信	ミルバハ地区防空及港 灣防備

(四) 作戰命令要綱

一日〇七一五 SHB 電令作第一號 D-1 D-2 作戰

警戒トナセヲ受令ス

一三〇 NSB 電令作第二一八號 D 作戰警戒ヲ

解_レヲ受令ス

一三〇〇 SHB 電令作第二號 D-1 P-2 作戰警戒

ヲ解_レヲ受令ス

一五三二 第八空襲部隊各隊ハ適宜 D 作戰配

備ヨリ復販セシメラル

二日〇三四五 SHB 機密〇一八一六番電_レハ

般通信系緊急通信制限第一法トナセヲ受令

ス

三日一三二二 W 根電令作第三號ニ依リ九三

六空_レハシキヤ_レハ派遣水偵ニ対シテ_レ此島以

<p>北部沿岸 警備部隊</p>	<p>緬甸根據地 部隊</p>
<p>北部沿岸警備 部隊指揮官 (第十三警備隊司令)</p>	<p>緬甸根據地 部隊指揮官</p>
<p>陸警科 二十五挺裝機銃 八基 十三挺裝機銃 九基 水警科 二十五挺裝機銃 二基 中興砲艇 二隻 十五挺裝機銃 二基 大砲 二隻 十三挺機銃各一門 附屬隊 貨物自動車一台</p>	<p>22222 BKKC 13131712</p>
<p>(一) 緬甸沿岸北部防備 警備 (二) 海上交通ニ関シ陸軍 部隊援護</p>	<p>(三) 緬甸沿岸泊地及補給 基地ニ整備防衛 (三) 海上交通保護 (四) 緬甸方面軍ト連絡</p>

第三十隻 雷艇隊	中部沿岸 警備部隊	南部沿岸 警備部隊
第三十一隻 雷艇 隊司令	中部沿岸警備 部隊指揮官 (第三十二警備隊司令)	南部沿岸警備 部隊指揮官 (第三十七警備隊司令)
莫雷艇 五隻 基地隊	陸警言料 押投四寸高角砲 八種高角砲 二門 三式機銃裝機銃 水警言料 中型砲艇 一隻 三式機銃裝機銃 一 基 大砲 四隻 附屬隊 貨物自動車 二台	陸警言料 十三式機銃裝機銃 八基 水警言料 附屬隊 貨物自動車 五台
未攻敵艦船 一隻滅 要地ノ確保	(一) 中部緬甸港灣水路ノ防 備警戒 (二) シンガポ ^ル 方面海軍部隊 ノ補給並ニ中継 (三) 新在海上交通保護 (四) 港灣及水路維持ニ關シ陸 軍部隊ニ協力	(一) 南部緬甸沿岸防備警戒 戒 (二) シンガポ ^ル 泊地及緬甸方面 部隊補給基地整備防衛 (三) 海上交通保護 (四) 艦隊泊地ノ整備

南ノ海岸線附近海面ノ敵艦艇ヲ搜索スベキ旨発令ス

一五ニ四^{BB}電令第七辨ニ依リ^{BB}司令ハ二月

十日迄ニA 87 G 七ニ。本空航油三六本ヲ^{BB}

口ノ凶ニ前送スベキ旨発令ス

八日ニ〇ニ七^{BB}電令第八辨ニ依リ當方面船

船(A B 共)ニ対シ爆雷裝備スベキ旨発令ス

九日一六一〇 SHB 電令作第六辨西方部隊電令

作第四ニ七辨ニ依ル^{BB}ンキヤ^{BB}濃遣水偵ヲ

彼南ニ復飯セシム^{BB}ン^{BB}受令ス

一八一三^{BB}根電令作第七辨ニ依リ若菜大尉

ヲシテ奥雷艇六隻ヲ進出セシムル如ク発令

ス

一九三五根電令作第六號ニ依リ九三六空
 回ンキヤン派遣水偵ニ対シ彼南ニ復版ヲ命
 ス
 十日〇〇〇〇 SHB 信電令作第五號ニ十一隻雷
 艇隊五隻十二日昭南発メルギニ進出右奥
 雷艇昭南発メ時期ヲ以テ根指揮官ノ指揮
 下ニ入ルヲ受令ス
 十一日一九五一比根電令作第八號ニ依リ
 司令ハ「毛」ルニ河ノ磁氣掃海ヲ實施ス
 ヲ受令ス
 十二日二二四〇 SHB 電令作第十號三四防空隊
 ヲ緬甸根據地部隊ニ加シ及魚雷艇五隻ヲ馬
 末根據地部隊ヨリ除キ緬甸根據地部隊ニ加
 シヲ受令ス

十三日一四五ハ 2AB 電令作第六號ニ依リ又ル
 ギ山ニ零戦一ハ 小隊配備セラレ
 十九日機密第 132 命令特第三號ニ依リ 132 河野
 兵曹長ヲシテ磁氣掃海ニ関シ 泰國海軍ヲ授
 助セシム
 二十一日機密比根命令第ニ辨ニ依リ 132 73
 テシツタニ河渡河点附近ノ磁氣機雷排除ヲ
 実施セシム
 二十八日比根電令作第九號ニ依リ十一特工
 ヲモールムニニ 派遣△船錦山丸ノ救難ニ從
 事セシム
 二十三日一八〇〇ニ根電令作第一〇號ヲ三
 警司令ハ應急戦備作業トシテハンターバト

14

閉塞アキヤゴ島ヲムレト島レトダン地邑チ
 本バ島ニ小型機雷敷設各地沿岸見張所建
 出アキヤゴ島ヲムレト島ニ無線機ヲ有スル
 見張所ノ設置ヲ実施スベシヲ電令ス
 一九四〇KF機密第二三三三三四五番電ニ依リ
 第一〇四防空隊ハ海司令部官所定トナル予定
 ニ〇三〇SAB電令作第一四號ニ依リ二十四日
 以後331号零戦一ヶ小隊ヲムレト島基地ニ派
 遣セシメラル
 二十七日ニ〇一七根電令作第十二號ニ依
 リ十一特工ノ錦山丸救難作業ヲ中止シ搭載
 物件揚収ニ協力爾餘ハ蘭貢ニ復収スバク電
 令